

令和4年度第3回常滑市教育委員会定例会

令和4年6月23日(木)

午後1時30分

市役所1階 会議室F

1 開会 午後1時30分

2 前回定例会会議録の承認

「承認」

3 会議録署名者の指名

「藤田幸恵委員」

4 出席委員

藤田幸恵委員、渡辺慶太郎委員、久田孝寛委員、梶田幸司委員、土方宗広教育長

5 欠席委員

なし

6 教育長の報告事項

それでは、教育長の報告事項につきまして、5月25日の定例会以降の教育委員会の動きをご報告いたします。

5月26日には市議会協議会が開催されましたが、教育委員会関連の付議事件はございませんでした。

5月27日、6月1日、6日、13日、17日には、それぞれ常滑西小学校、西浦北小学校、青海中学校、青海こども園、西浦南小学校の学校訪問でした。全体的に落ち着いた雰囲気の中で教育活動が行われており安心する一方で、今年度から始まったコミュニティ・スクールについていろいろと悩んだり思案したりしている校長先生も見られました。校長先生に資質・能力を發揮していただけるように教育委員会としても指導・助言や支援を積極的に行う必要性を感じました。また、青海こども園に訪問した際には、生まれつき脳に重い障害があり、ベビーカーや車椅子での生活を送っている園児に会うことができました。園長先生の話では、こども園で生活するようになってから徐々に表情も豊かになったということで、うれしく思いました。

5月27日には、常滑市体育協会総会に市長、副議長とともに出席させていただきました。書面開催ではない3年ぶりの開催ということでよかったですと思います。29日には邦楽のつどいに出席させていただきました。これについても3年ぶりの開催ということで関係者の皆さんの喜ぶ姿が多く見られました。また「金沢茶屋街(かなざわちゃやがい)」という舞を10代の女性たちが披露している姿を見て邦楽も若手に継承されているんだなとうれしく思いました。

8日から市議会定例会が開会され、教育委員会関連の議案として、大野小学校北館大規模改造工事請負契約について、青海中学校プール改築工事請負契約について、南陵中学校グラウンド改修工事請負契約について、新学校給食共同調理場整備事業建設

工事請負契約についての4議案が上程され、16日の文教厚生委員会で審議していただき、22日の市議会定例会で可決されました。

8・9日には、一般質問がありました。

教育委員会関係は、7名の議員からご質問をいただきました。

加藤代史子議員からは「物価高騰の中、給食費の現状と値上げについての考えについて」、と「公共施設の男性トイレの個室にサンタリーボックスを設置する考えについて」という質問をいただきました。

大川秀徳議員からは「休日の運動部活動の地域移行についての本市の方針について」と「地域移行の受け皿となるスポーツ団体や指導者と学校との連携・協議についての見解について」という質問をいただきました。

加藤久豊議員からは「発達障害のある子供をもつ保護者に対してミーティングの場を設けていたが打ち切った。その経緯と福祉と教育が連携し親身になって対応することについて」という質問をいただきました。

井上恭子議員からは「農薬や化学肥料を使用しないオーガニック栽培農家を増やすことが喫緊の課題と考えるが、現在の学校における食育の内容と頻度はどうか」という質問をいただきました。

相羽助宣議員からは「今後のマスクの着用について、保護者にどのような方法で周知していくのか」という質問をいただきました。

盛田克己議員からは「コミュニティ・スクールについて、令和3年度に取り組んだ三和小と南陵中の取組の状況や問題点、課題について」と「ボランティア的な奉仕もコミュニティ・スクールに含むのか」と「1校あたりの予算はいくらか」という質問をいただきました。

渡邊十三香議員からは「全国で910か所以上のまちライブラリーがある。本市のまちライブラリーの第一歩として、植本祭を行い、まちの活性化につなげてはどうか」という質問をいただきました。

答弁については、ここでは割愛いたしますが、ご理解いただけたものと思っております。

14日の予算委員会の後、協議会が開催され、令和4年度新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用した8つの事業についての概要が示されました。その事業の一つに「給食食材品質確保事業」が入っております。これは、1食あたり30円を市が負担し、7月以降の給食の品質を確保し、地元食材を活用して地元の事業者も支援するものです。8事業すべて22日の市議会定例会で可決していただきました。

23日には校長会議を開催いたしました。1学期も残すところ1か月となり、学期のまとめとして留意することなどを中心に所管事項を伝えました。

最後になりますが、小中学校の修学旅行ですが、本日までに12校が終了しました。野外活動は中学校4校が終了しました。この後予定されているのは、10月4日実施予定の常滑東小の修学旅行と8月上旬に実施予定の9小学校の野外活動です。

本日の定例会は、1つの議案と2つの報告が予定されております。よろしくお願いたします。

7 議題 付議事件

議案第1号 常滑市学校給食共同調理場運営審議会委員の委嘱について

学校給食共同調理場長：資料に基づき説明。

教育長：何かご質問ございませんか。

委員全員：ありません。

教育長：お認めいただけますか。

委員全員：異議なし。

「可決」

報告第1号 図書館年報（令和3年度の実績）

図書館長：資料に基づき説明。

教育長：何かご質問ございませんか。

委員：43 ページですが、半田市図書館の貸出点数や貸出密度を確認すると、単位が違うように思いますが、どういうことでしょうか。

図書館長：冊と記載があるものは、本のみであることに對しまして、点となっているものは、CDやDVDも含んでいます。

委員：旧図書館に歩いて来ていらっしゃった方々は、図書館が閉館してしまったことに伴い、来れなくなったと思いますが、クレームなどはありませんでしたか。特に問題はありませんでしたか。

図書館長：現時点では特にありませんが、閉館した令和4年1月頃は、図書館はどこにあるのか。借りた本はどこに返却したらよいのかといった問い合わせはありました。

委員：今は特になく、青海公民館や南陵公民館で本を借りているということでしょうか。

図書館長：そのとおりです。

教育長：13 ページの利用者数では、こども図書室の一日平均が73人となっていますが、こども図書室は親子で来ることが基本だと思いますので、2で割りますとおおよそ36組ぐらいがきたと思います。ほかの図書室と比べて、世帯数でみた場合は、どのようにみえていますか。

図書館長：16 ページに地区人口当たりの利用状況がありまして、そこを確認してみますと、こども図書室では親子で借りられているように考えます。世帯数による数字については、載せていないため、今後どうしていくか検討していきます。

教育長：こども図書室に来ている一日の平均は、73人くらいということでした。こども図書室の前を通るときに中を覗くことはありますが、おおむね2、3組いるように感じます。感覚的には、予想より多くの方に活用していただいているようで驚いています。

「承認」

報告第2号 第65回常滑市美術展の結果報告について

生涯学習スポーツ課長：資料に基づき説明。

教育長：何かご質問ございませんか。

委員：美術展は、3年ぶりに開催することができましたので、会場の設置や運営の仕方等を考えながらやることがありましたが、生涯学習スポーツ課が事前の準備等をほとんど終わらせてくれたため、ありがたかったです。また、出品数がだんだん減ってきているという話がでてきましたが、運営委員会は、60代がまだまだ少なく、80代や70代が中心で動いています。そのため、作品数が少なくなっているのは、ある程度、仕方がないと思っています。しかし、今回は、常滑高校が中心でしたが、初めて絵画、彫刻で出品する若手が多かったため、今後につながるものがあつたので良かったと考えています。作品が増えることは大切ですので、モノづくりをしている方に声掛けをしていきたいですが、会場のキャパシティ的には、限界に感じてしまいます。作品数が多くなった場合、絵画の大きさを制限するなどの対策が必要だと考えています。課題もありますが、今回は、いい作品が多かった印象で、質が向上したと感じています。

教育長：10年前は、300点を超えていますが、設置面積が多かったのでしょうか。

委員：以前は、旧アリーナでの展示をしていましたので、会場は変わっています。その後、旧常滑高校の体育館で開催したこともあります。作品数が増えない理由につきましては、若い人が絵を描く等の時間がないことも考えられます。モノづくりをする余裕がないと作品ができないため、作品数が少なくなっていると考えます。

「承認」

8 その他（諸報告について）

- ・教育委員（会）行事連絡（6月～8月）

学校教育課長より資料に基づき説明。

- ・地域未来塾～数学克服大作戦～

学校教育課長：地域未来塾は国が推進する補助事業で、昨年度、本市では中学生を対象に市民交流センター及び中央公民館の2か所で実施しました。市民交流センターでは、青海・鬼崎中の生徒を対象に、中央公民館では、常滑・南陵中の生徒を対象にそれぞれ実施し、学習の方法は、自習形式で、疑問点を指導者に聞くといった形でありました。

今回、事業を見直しを行い、その対象を「学習塾に通っておらず、かつ数学に苦手意識のある中学生」にしました。理由としては、教育委員会の方針として「ひとりひとり経済的に困窮していても

取り残さず教育をしていくこと」が大切であると捉え、経済格差によって学力格差が出ないようにしていく観点が必要だと考えたためです。また、科目を数学にしたのは、一度行き詰ってしまうと後の理解度や学習意欲に響いてしまう科目だと考えたためです。指導者については、実際に教員として勤務している人を講師として招き、授業形式で実施します。日程については、夏休み期間の土日の10日間で行う予定です。中学生1・2・3年生が行き詰まりそうな箇所を重点的に授業を行い、また、別室では自習室も設ける予定です。チラシの裏面には10日間のカリキュラムを記載しています。このような形で今回試行的に実施し、その結果を踏まえて今後どのような形が良いのか、夏休み以外にもテスト期間や冬休みはどうしていくのか、今後は中学校区ごとでやったほうがよいのか、コミュニティ・スクールで取り組んだ方がよいのか等、様々な視点から検討していきたいと考えています。

委員：塾に通っているのは、自己申告でしょうか。また、今回の事業は数学に特化しておりますが、申込者から英語については習っているが、数学は習っていないといった申し出があった場合はどうするのでしょうか。

学校教育課長：塾に通っている証明をするのかという点は、自己申告になります。

教育部長：基本的には経済的にあまり裕福でないために塾に通えない子を対象としていますので、基本的には、ほかの塾に通っている子は遠慮していただきたいといった考えがあります。また、そこまで細かく確認できないという課題があります。

教育長：希望者がどれだけいるのかといった不安もあります。学校で個人面談があるため、そこで、数学に苦手意識のある人に対して、紹介させていただきたい旨のお願いを学校には行っています。

「了承」